「COVID-19」研究会

総合人文科学研究センター研究部門「COVID-19 を経験した社会の人文学」
2026 年度第４回研究会
共催：早稲田大学ジェンダー研究所

コロナ禍で生じた二重の行動制限に対する
バングラデシュの女性たち

日時：2027 年 1 月 6 日(水)　18 ： 00 ～ 19 ： 30

方法：Zoom によるオンライン開催

報告者：本間　まり子
（早稲田大学先端社会科学研究所）

バングラデシュにおいて女性たちは、伝統的に、家父長制に基づく世帯内における妻や母としての役割を強く課されており、さらに世帯の外部との接触に制約を与えるジェンダー規範によって、社会経済活動への様々な制約を受けてきた。さらにコロナ禍において、ロックダウンをはじめとした厳しい感染対策のために、人々の社会経済活動は大きく制限された。結果としてバングラデシュの女性たちは、平時からの経済活動への制限に加えて、感染対策のための行動制限により二重の制約を受けることになった。本報告では、二重の制約に対するバングラデシュの女性たちの対応とそれによって生じた変化について、事例調査に基づいて報告する。

付記：この研究会は公開で行われますので、どなたにもご参加いただけます。研究部門にご所属でない方は、1 月 5 日(火)までに阿比留久美研究室に参加希望をメールでお伝えください。

連絡先：阿比留久美研究室（abiru93@waseda.jp）